

# じゃ 蛇の造り方②

## 眼

眼は<sup>もみ</sup>朶がらを半紙に包んで麻ひもなどで<sup>しば</sup>縛り、<sup>すみ</sup>墨で半紙の丸い部分に眼を書きます。この作業は世話人の仕事とされています。なお、眼には同じく藁で編んだまつげもつけられます。

## 耳と舌

耳と舌は、一本一本藁を編んで造ります。編み方はほぼ同じですが、舌の方が耳よりも少し長めに編みます。

## 鼻

鼻は「はちりん棒」と呼ばれる編み台<sup>ぼう</sup>を使い、藁を一本一本ていねいに並べて<sup>えんすいじょう</sup>円錐状に編みます。

## 男根・刀

蛇にとりつけられる男性の象徴は、眼と同じく世話人によって造られます。ケヤキの棒をけずったものに、早苗と朶がらの袋をつけます。また、刀もケヤキの棒をけずって造り、男根と一緒に蛇の胴体につけます。

## ひげ

ひげは藁を三ッ編にして、左右で2本造ります。

## おふだ 御札

蛇の口の中に置かれる御札は、近くの<sup>みつぞういん</sup>密蔵院の住職に書いてもらいます。平成28年は「天下泰平 万民豊楽 世悪吞消 災害復興 奉納誦念仏百萬遍所願成就祈 海寿山萬福寺 密蔵院」と書かれた御札でしたが、内容は年によって変わります。



眼・耳・鼻・ひげ・男根・刀